

ジェンダー関連科目紹介

ジェンダーを講義の大きな柱とする科目から「ジェンダー関連科目紹介展」で展示するパネルを PDF にしました。
シラバスから講義概要、達成目標を抽出し、担当者のメッセージとともに紹介しています。

ジェンダー関連科目紹介展 2022 紹介科目一覧

開講学部・学科	科目名	開講 キャンパス	学期	※	担当者
教育人間科学部教育学科	ジェンダーと教育	青山	後期		石黒 万里子
法学部	人権法特論 E	青山	後期		谷口 洋幸
法学部	人権法特論 G	青山	前期		谷口 洋幸
地球社会共生学部	ジェンダーの社会学（英語講義）	相模原	前期	※	菅野 美佐子
コミュニティ人間科学部	女性と政治参加	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	女性社会活動論	相模原	後期		小林 瑞乃
コミュニティ人間科学部	女性社会運動	相模原	前期		永井 健夫
コミュニティ人間科学部	女性と記録・表現	相模原	後期		辻 吉祥
コミュニティ人間科学部	キリスト教と女性	相模原	後期		吉岡 康子
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論 E	相模原	前期		梅垣 千尋
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論 G	相模原	後期		永井 健夫
コミュニティ人間科学部	コミュニティ人間科学特論 P	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	ジェンダーとフェミニズム A／フェミニズム A	青山	前期		西山 千恵子
青山スタンダード科目	ジェンダーとフェミニズム B／フェミニズム B	青山	後期		西山 千恵子
青山スタンダード科目	いのち・女性・社会	青山	後期		西山 利佳
青山スタンダード科目	聖書の中の女性たち（新約）	相模原	前期		福島 裕子
青山スタンダード科目	聖書の中の女性たち（旧約）	青山	後期		福島 裕子
青山スタンダード科目	現代社会の諸問題（個別科目）（英語講義）	青山	後期		COOP, Stephanie L.
青山スタンダード科目	自己理解（個別科目）	相模原	前期		西山 利佳
青山スタンダード科目	歴史と人間（個別科目）	相模原	前期		小林 瑞乃
青山スタンダード科目	歴史と人間（総合科目）	相模原	前期		輪島 達郎 小林 瑞乃 山田 美穂子

※他学部が開講されていないので注意してください

ジェンダー関連科目紹介展 2022

会期：2022 年 4 月 1 日（金）～16 日（土）・2022 年 9 月 16 日（金）～9 月 30 日（金）

時間：月～金 9:00～18:20・土 9:00～17:00

場所：ジェンダー研究センターギャラリー（青山キャンパス・短大北校舎 1 階）

科目名：「ジェンダーと教育」

■ 講義概要

ジェンダーと教育に関するテーマについて、学校内のできごとをはじめ、メディアやスポーツなどの社会教育、家庭教育を含めて多角的に扱います。受講生による発表やディスカッションへの積極的な参加を求めます。

■ 達成目標

- 現代社会におけるジェンダーに関わる諸課題に気づく。
- ジェンダーに関わる課題について、他者の意見を知る。
- 教育を通してジェンダーにまつわる課題にどのように取り組むか、自ら考え表明する。

担当者：石黒 万里子 (いしぐろ まりこ)

現状を変革するのも、維持(再生産)するのも教育です。教育によってジェンダー平等やジェンダー公正の実現が促進される可能性もありますが、ジェンダーステレオタイプを構築し続けているのも教育です。私たちの身体的な違いに、(あえて) 意味を与えて強調するような知識や価値観(スコット)は、家族や学校、社会による教育を通して伝達されるからです。この授業では、教育のそうした様々な側面を念頭に、ジェンダーと教育とがどのようにかかわるのかを、事例を踏まえて検討します。

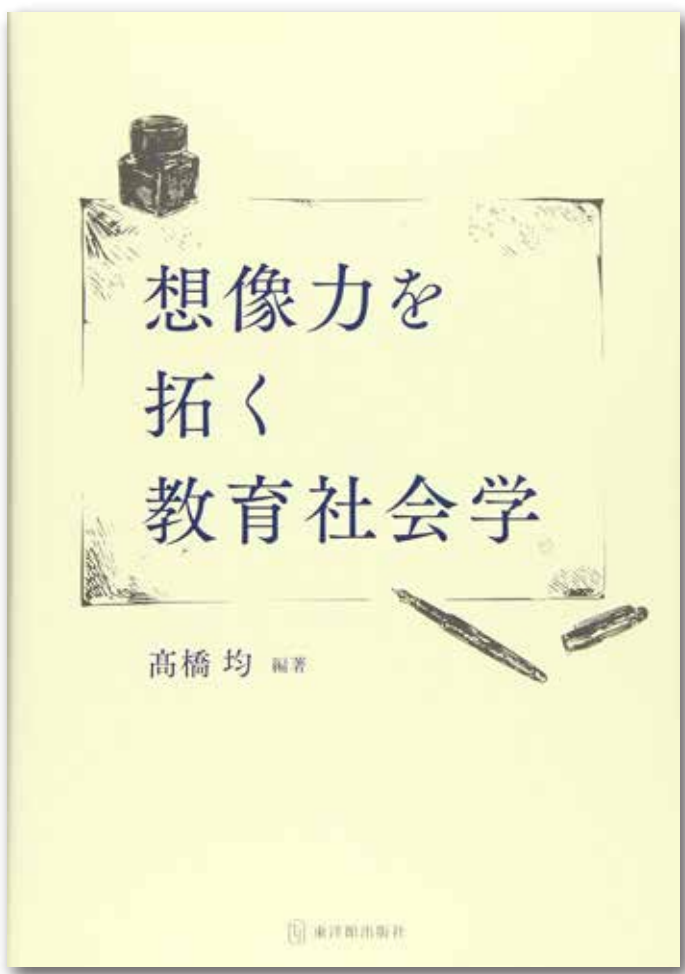
ジェンダーについて学ぶことは、「性別」についての知識を増やすだけではなく、自分とは感じ方や考え方が異なる「他者」の存在を尊重し、共生する方策について自ら考えるきっかけになります。授業では、ひとつの「正解」にたどり着くことではなく、身近な他者の存在に気づくことができるよう、ディスカッションを通して異なる意見に触れる機会を大切にしています。他の人と「同じ」でなくていいのです。私たちはすでに多様なはずです。

■ プロフィール

東京成徳大学子ども学部教授。早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士(教育学)。

【主な著書】

- 高橋均編著 2019『想像力を拓く教育社会学』東洋館(分担執筆)
- 坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 2020『教育原理』光生館(分担執筆)
- 小玉亮子編著 2020『幼児教育』ミネルヴァ書房(分担執筆)



科目名：「人権法特論 E（ジェンダーと人権）」

■ 講義概要

この講義のテーマは「ジェンダーと人権」です。ジェンダーという概念は多義的です。まず、ジェンダーのもつ意味を確認した上で、国際法を含む国内外のジェンダー平等に関する法政策について学びます。ジェンダー平等の実現は 1979 年に採択された女性差別撤廃条約に端を発する国際社会の共通目標のひとつです。性／性別だけを理由とする不当に区別や性／性別ごとにあらわれる不均衡な影響は、ジェンダー平等の実現を阻害するものとして、改善が求められてきました。これには法律や政策のみならず、社会における慣習や慣行も含まれます。国家はもとより、企業や個人も、その責任の一翼を担っています。

講義は担当教員によるレクチャーのほかにも、受講生によるグループディスカッションやプレゼンテーションを交えながら、基礎知識を確実なものにするとともに、政治・職場・学校・家庭で人々が経験する事例を通して、ジェンダーに敏感な人権保障のあり方を考えます。

なお、講義でとりあげるべき時事問題の発生や社会情勢の変化による授業形態の変更等により、授業計画記載事項には大幅な変更が生じる可能性があります。ご了承の上、履修してください。

■ 達成目標

- 1. ジェンダーという概念のもつ多義性、および、ジェンダーと人権／法との関係を理解する。
- 2. グローバルな視点からジェンダー平等の実現に向けて取り組むべき課題を発見する。
- 3. ジェンダーに敏感な視点から現行の法政策を含めた社会制度のあり方を問い直す。

担当者：谷口 洋幸（たにぐち ひろゆき）

性やジェンダーにもとづく差別の撤廃に向けて、世界ではさまざまな取り組みが進められています。その大きな推進力のひとつとなっているのが 1979 年にできた女性差別撤廃条約です。この条約には各国の履行状況を監視する委員会がもうけられ、40 年以上の歴史の中で取り上げる事例やテーマ、対象も飛躍的に増えてきました。この授業では、女性差別撤廃条約を軸にしながら、日本や世界のジェンダーと人権をめぐる課題について考えます。性やジェンダーによる生きづらさを感じている人はもちろんのこと、自分には関係ない、あるいは、いまの時代には関係ない話だと感じている人も、新しい気づきが得られることと思います。ぜひ気軽に受講してみてください。

■ プロフィール

法学部教授、博士（法学）。学生時代から国際女性の地位協会のメンバーとして、女性差別撤廃委員会や国連女性の地位委員会の活動に参加。日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会、国際人権法学会、GID（性同一性障害）学会で理事を務める。



国際女性の地位協会編『コンメンタル女性差別撤廃条約』（尚学社・2010）（分担執筆）



国際女性の地位協会編『男女平等はどこまで進んだか：女性差別撤廃条約から考える』（岩波書店・2018）（分担執筆）



第61回国連女性の地位委員会（2017）に国連ニューヨーク本部のロビーで展示された「HERSTORY」写真展

科目名：「人権法特論 G（性的マイノリティと人権）」

■ 講義概要

この講義のテーマは「LGBTQ と人権」です。LGBTQ（性的マイノリティ）／性の多様性に関する概念を理解した上で、国際法と含む国内外の関連する法政策について学びます。世界では同性どうしで結婚して家庭を築いたり、自らの望む性別で平穏に生活でき国や地域がある一方で、同性を好きになることが死刑を含む刑罰の対象となったり、性別があいまいなだけで暴力や殺害の危険にさらされる国や地域があります。2013 年に国連は「自由と平等キャンペーン」を立ち上げ、性的マイノリティの人権保障に向けた取り組みを開始しています。

講義は担当教員によるレクチャーのほかにも、受講生によるグループディスカッションやプレゼンテーションを交えながら、基礎知識を確実なものにするとともに、LGBTQ に関連する事例を通して、セクシュアリティに敏感な人権保障のあり方を考えます。

なお、講義でとりあげるべき時事問題の発生や社会情勢の変化による授業形態の変更等により、授業計画記載事項には大幅な変更が生じる可能性があります。ご了承の上、履修してください。

■ 達成目標

- 1. 性の多様性にかかわる概念を体系的に理解し、場面に応じて、的確に説明する。
- 2. グローバルな視点から LGBTQ と人権保障に向けて取り組むべき課題を発見する。
- 3. セクシュアリティに敏感な視点から現行の法政策を含めた社会制度のあり方を問い直す。

担当者：谷口 洋幸（たにぐち ひろゆき）

2015 年に渋谷区が同性カップルにパートナーシップ証明を発行しはじめて以後、日本でも LGBTQ に関する社会の認知度は飛躍的に高まってきました。一方、日本では婚姻はあいかわらず男女間に限られていて、戸籍上の性別を変更するためには世界一厳しい条件をクリアしなければならない状況も続いています。この授業では、LGBTQ に関する日本の法政策や判例の歴史を紐解きながら、人権という言葉のもつ意味を考えます。LGBTQ と人権について詳しく知りたい人だけでなく、自分は LGBTQ に理解がある、差別意識なんてもっていないと思っている（思い込んでいる）人にも、ぜひ受講していただきたい科目です。

■ プロフィール

法学部教授、博士（法学）。1990 年代後半から LGBTQ と法律問題に関する研究会を主催し、2011 年に『性的マイノリティ判例解説』を出版。日本学術会議連携会員。ジェンダー法学会、国際人権法学会、GID（性同一性障害）学会で理事を務める。



谷口洋幸・齊藤笑美子・大島梨沙編著『性的マイノリティ判例解説』（信山社・2011）



谷口洋幸編『LGBTをめぐる法と社会』（日本加除出版・2019）



2015 年に韓国で開催された韓国・台湾・日本の LGBTQ 法政策に関する比較シンポジウムの登壇者（右から 3 人目が科目担当者）

■ 講義概要

ジェンダーは、アイデンティティ形成や他者認識における基本的な要素の一つである。ジェンダーに基づくアイデンティティや行動は、生得的な特性ではなく、異なる社会や文化の規範に従って構築される。本講義では、ジェンダー規範や役割とその実践が社会構造や諸種の制度、権力関係を通してどのように形成されるかを理解するために、ジェンダーとセクシュアリティの概念と理論を探究する。また、日本や他の地域社会における様々な事例を用いて、性やジェンダーにまつわる既存の概念を批判的に考察する。

■ 達成目標

- ・ジェンダーが、人種、階級、民族、宗教などの社会・文化的要因によって、いかに複雑に構築・再構築されるのかを説明できる。
- ・ジェンダーとセクシュアリティに関する社会学的理論と概念を、受講生自身の日常生活における経験と関連づけて考えることができる。
- ・ジェンダーについて、受講生が所属する社会において「常識」として理解されている事象を批判的に分析することができる。

担当者：菅野 美佐子（かんの みさこ）

ジェンダーは私たちの社会生活の中のいたるところに無意識のうちに入り込んでいます。ジェンダーを学ぶことは、自分は女か男か、なぜそう思うのか、なぜそのように区分されているのか、そしてその区分にはどのようなパワーやヒエラルキーが潜んでいるのかなどを今一度問い直すことであり、自らが属する社会の構成・構造について深く言及することにもつながります。学生の皆さんには、ジェンダーの学びを通じて、ジェンダーに限らず、人種、民族、階級など社会に内在する諸種の差異や多様性にも気づき、理解し、受容する柔軟なマインドを育んでほしいと思います。

■ プロフィール

地球社会共生学部・助教。専門は文化人類学、インド地域研究。主な著書に、『インド・ジェンダー研究ハンドブック』東京外国語大学出版会、2018年（共著）、『持続可能な開発における〈文化〉の居場所 / 「誰一人取り残さない」開発への応答』春風社、2021年（共著）などがある。



「ジェンダーの社会学」授業風景

科目名：「女性と政治参加」

■ 講義概要

この科目は、女性の政治参加という問題を、時間的にも空間的にも射程を広げて捉え、その道のりや実態と理論的な課題について認識することを目的とします。まず世界各国における女性の政治参加の状況を比較し、日本の位置づけを確認した上で、特にイギリス近現代史に焦点を当てながら、女性の政治参加のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

■ 達成目標

- 現代日本の「女性と政治参加」をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ジェンダーの視点から、政治参加のあり方の多層性・多元性について理解する。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

ここ数年、メディアでよく取り上げられているように、日本はとくに政治の世界で男女格差が著しい国であるといわれています。世界経済フォーラムが公表している「ジェンダーギャップ指数」のランキングでは、政治分野で153カ国中147位(2021年度)。なぜこれほどまでに低くなるのか、当然疑問が湧いてくるでしょうが、この授業では現代の日本からいったん離れて、イギリスにおける女性の政治参加の歴史を辿ることで、この謎について深く考えるための〈比較の視座〉を示したいと思います。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題にめざめ、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021年4月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。



The Women's Library Reading Room (ロンドン大学 LSE)

科目名：「女性社会活動論」

■ 講義概要

これまで女性達は社会に対してどのような思想と行動を示してきたのか、現在に至るまでのその歩みを理解し、今後の展望を探ります。

テキスト読解によって具体的事例を通して女性をめぐる現状と課題を理解し、活発なディスカッションによってそれぞれの問題意識を明確にしていきます。様々な角度から考察し、各自の調査対象や研究目標を決定し、議論を重ねて検証を深め、その成果を口頭発表及びレポートにまとめます。

■ 達成目標

- 1 現在に至るまでの女性達の思想と行動、社会に対する活動などの諸相を理解すること。
- 2 現代女性をめぐる諸問題について複眼的に考察すること。
- 3 各自のテーマを発見し、調査・分析した成果を発表すること。

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

人生をよりよく豊かに生きるために主体的に学ぼうとする意欲ある姿勢を求めます。この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な問題に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。女性解放運動、身体と言葉、女性学、フェミニズムとジェンダーの来歴などを学び、様々なシステム化した我々を取り巻く関係を考え、視野を広げて現代日本の諸相を把握し、答えのない問いに对峙することで自身の見解を打ち立てていく挑戦をして欲しいと願っています。

大げさに聞こえるかもしれませんが、授業への取り組みは自分自身と对峙すること、授業の時間は生き方を構築する時間として大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：日本近現代史（社会史、思想史、女性史）

現在の研究では、明治以降の近代社会の形成期という激動する社会において、前人未到の境地を切り開き、人生を存分に生き抜いた様々な女性の思想と行動を掘り起こし、光を当てています。

現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。



科目名：「女性と社会運動」

■ 講義概要

この科目では、近現代日本における女性の社会運動を振り返ることをとおして、人々が連帯・協働して問題解決に取り組む「運動」の意義について考察する。長らく社会的な行動や発言を制約されてきた女性たちによる運動であればこそ、そこには社会変革の難しさと活路の両方の示唆が含まれていると期待できる。先ず、社会運動の意味や個人と社会の関係について検討したうえで、近代日本建設期（明治～昭和初期）における先駆的な女性運動家の足跡を振り返る。その後、現代社会の特質である「消費社会」状況に即して、「運動」の可能性と課題について探ってゆく。

■ 達成目標

- ①「女性の社会運動」の発展過程に関する知識を深める
- ②女性が社会的に行動することの意義について理解する

担当者：永井 健夫（ながい かつお）

「社会の一員」という言い方があります。人間は何らかの社会集団に属しながら生きる社会的な存在です。その集団に属する、つまり「社会の一員」である以上、そこで求められるルールやマナーを守らなければならないし、その社会の存立のためにいろいろな義務を果たすことも求められます。しかし、「社会」の求めることに応ずるだけが「社会の一員」の役割ではなく、「社会」に問題や欠陥があれば声を挙げてそれを指摘し、改める努力を試みることも「一員」としての責任であり、権利でもあります。

何百年も前の話ではなく、ほんの 100 年にも満たない前の日本では、この責任と権利は国民全体が制限されており、特に女性は、選挙権や財産権が認められず、挙げるべき声そのものが奪われていました。それでも、社会の担い手としての責任を果たし権利を行使しようとした女性たちがいたし、その流れを受け継ぐ人たちもいます。

授業で扱えるのは一部にすぎませんが、その女性たちの軌跡を振り返ることをとおして、我々が社会に関わる方法について考えてゆければと思います。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部の教授です（2021 年度に就任）。主には、知の在り方の変容可能性について説明する成人学習理論の研究に取り組んでいます。最近は、ちょっとだけ消費者教育行政のお手伝いもしています。「昭和」のド真ん中で育ったオジサンなので、心の奥底には性差別的な細胞が潜んでいるはずです。そんな自分を見つめ直しながら「ジェンダー関連科目」の授業に取り組んでいます。

科目名：「女性と記録・表現」

■ 講義概要

人口の半数を占めながら従来〈周縁〉化されてきたジェンダーの、表現の歴史、現在、未来について熟考する。ここでは、文学の歴史上それがどのようにつくられてきたのか、その構造、仕組み、政治的無意識などについて、これまで身近にわれわれが接してきた近代の文化内容（文学、思想、映像 etc.）から、具体的に幅広く考察してゆく。講義に加え、受講者の積極的な見解表明を求める。

■ 達成目標

女性ないし女性ジェンダー化された存在の具体的な歴史、場面、表現に精通し、問題を通俗化したり個々の心理に矮小化したりせず、広くその構造的、社会的なありかたにおいて、把握できるようにする。さらにはそのあたらしい問題認識において、未来への具体的な展望、脱・支配的な人間文化のあり方を模索できるようにする。

担当者：辻 吉祥（つじ よしひろ）

ひとが「人間」としておこなう営為に、性による2分割は――極めて粗雑なこの枠組みが――いったいなんの役に立つのだろう……こんな分類、いまどき……遅れすぎている、この国。。。ジェンダー関連科目、なんて提示しないといけないこの社会水準自体、みつともなくてひとの行き交う街路にも出歩く気がしない。わたしたちは未知の、あたらしい未来へのエキゾティズムをうしなってしまったのだ……社会に求められているのは、〈あたらしいニンゲン〉、ただそのひとだけなのに――。〈～らしさ〉を超えて、〈らしくない未知〉を求めるひとに、かつて見たこともない教室のひとときを。

■ プロフィール

ごくふつうのひとです。最近、大阪府育英会の奨学金を返し終えました、ふう～。そうです、あの政治的にひどいことが露骨にはじめられているオオサカで育ちました。
現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。

科目名：「キリスト教と女性」

■ 講義概要

聖書および各時代、各分野を生きた女性たちの生き方や課題を通して、現代における排除や孤立化を乗り越え、共に生きる世界を構築する道を考察します。

■ 達成目標

聖書が語る世界観、女性観、家族観などを理解することができる。

取り上げる人物の歩みと闘いを通して、現代のコロナ禍において生きる意味と知恵を身につける。

担当者：吉岡 康子（よしおか やすこ）

聖書で活躍する女性たちの生き活きとした姿に触れることからはじめ、世界の教会で活躍した女性、キリスト教国家の女王たち、「クリシタン」の女性、女性宣教師の働き、新紙幣に登場する津田梅子、ハンセン病者と共に生きた女性たち、ヒットラーと闘った女性たち、現代の教会における女性たちの役割と課題、メルケルをはじめとした女性キリスト者の社会的リーダーの働きなどをたどりながら、女性も男性も現代を生き抜く力と勇気を共に見出したいと願っています。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部宗教主任。日本キリスト教団吉祥寺教会牧師。SCF 学生キリスト教友愛会（学生・青年センター）館長・理事長。青山学院女子短期大学宗教主任（2009～2022）。学内外で被災地支援活動やボランティアを継続しています。



東日本大震災被災地支援活動の一環で実施された「アートでつながる壁画プロジェクト」岩手県宮古市立磯鶏小学校での制作ワークショップにて（2017年10月）

科目名：「コミュニティ人間科学特論 E」

■ 講義概要

【講義テーマ：近現代イギリス女性史】

この特論は、イギリスの近現代史を対象として、女性がいかに生活の場や社会のなかでみずからの役割を見出し、生き方の可能性の幅を広げていったのかを理解することを目標とします。まず、歴史叙述において相対的に女性の存在が明らかにされにくいことを踏まえた上で、ジェンダーという切り口から歴史を捉えることの意義と、現代の女性の生き方を歴史的に広い視野から相対化することの意義を確認します。その上で、フェミニズム思想の成立、近代家族の形成、教育制度の整備、女性の労働、戦争と女性といったトピックスを通して、近現代イギリス女性史にたいする理解を深めます。

■ 達成目標

- ジェンダーという切り口から近現代イギリスの歴史をとらえ直す意義を理解する。
- 近代から現代にかけて、イギリスの女性たちがどのような生き方を求められ、どのようにして活動の幅を広げていったのかを具体的に理解する。
- 発表や自由なディスカッションを通じて、アカデミックな思考力を鍛えるとともに豊かなコミュニケーションの力を身につける。

担当者：梅垣 千尋（うめがき ちひろ）

私たちは現代の自分の生き方や価値観を「当たり前」のものだと考えがちですが、100 年前、あるいは 200 年前の女性たちがどのように暮らしていたのかを具体的に学んでいくと、いろいろな発見があり、自分の常識が良い意味で崩されて、視野が広がります。同じことを学んでいても、人によって「こんなに大変だったんだ」「意外と楽しそう」「今の自分と結構重なる」など、受け取り方はさまざまかもしれません。そうした違いも含めて、学生同士で自由に意見を交わせるような授業にしたいと思っています。

■ プロフィール

東京生まれ。大学時代に「フェミニズム」の問題にめざめ、その後、歴史（思想史）の分野でこの問題を考えようと、女性史・ジェンダー史を学ぶ。2021 年 4 月から青山学院大学コミュニティ人間科学部教授。



右：梅垣千尋『女性の権利を擁護する：メアリ・ウルストンクラフトの挑戦』（白澤社・2011 年）

科目名：「コミュニティ人間科学特論 G」

■ 講義概要

本特論は、現代社会に生きる女性が生活圏において直面している諸課題を、近現代日本の思想と文学をとおして理解することを目的とする。まず、「生活圏」（生活空間・生活世界）の意味について確認し、次いで、文学的創作活動（書くこと）に潜在する課題認識や問題提起の契機について検討する。そのうえで、変動する 20 世紀に活躍した女性作家たちの軌跡と作品を振り返ることをとおして、人の生き方や社会との関わり方などについて考える。

■ 達成目標

- ①近現代日本の女性作家の人物像と作品に関する知識を深める
- ②文章表現活動に備わっている可能性について理解する
- ③書くことによる表現力を高める

担当者：永井 健夫（ながい かつお）

客観的な事実か虚構の絵空事か、いずれにせよ、或る事をめぐる経験や思いを言葉に連ねてゆくこと、つまり「物語ること」が結晶化して作品となる。それは、個人的なものであった経験や思いに、多少なりとも、普遍性が培われてゆくプロセスである。だからこそ、赤の他人が創った作品であっても、強く共鳴する場合がある。つまり、作品を読むという行為は、描かれた世界の中から共鳴できる要素を探し出す作業でもある。

ところで、「女流作家」という表現にも潜むイデオロギーにも通ずるものだが、近現代の日本では、社会の維持・運営の基盤を「イエ」に求め、その「イエ」の再生産機能を担うことを女性の基本的役割として期待する考え方があったし、今もなお、ある。これは女性が「イエ」の外で（つまり、社会で）活躍することを忌み嫌う思想であり、男性がプレーヤーであるはずの場で女性が同じことをしようとする、その役名には「女流」という接頭辞が付けられるのである。

授業では（特に後半になってから）、そうした「女流作家」たちが書き綴ったものを読み解きながら、何か共鳴できるもの、そして人間や社会について考えるヒントを探ってゆく。

■ プロフィール

コミュニティ人間科学部の教授です（2021 年度に就任）。主には、知の在り方の変容可能性について説明する成人学習理論の研究に取り組んでいます。最近では、ちょっとだけ消費者教育行政のお手伝いもしています。「昭和」のド真ん中で育ったオジサンなので、心の奥底には性差別的な細胞が潜んでいるはずですが。そんな自分を見つめ直しながら「ジェンダー関連科目」の授業に取り組んでいます。

科目名：「コミュニティ人間科学特論 P」

■ 講義概要

～ライフヒストリー探求～

自分自身や他者をみつめ、恋愛や婚活といった身近なテーマをはじめ、男女格差、多様な性と家族、差別と偏見、戦争と平和、命の問題など、様々な観点から現代社会の諸問題とその背景を把握する授業です。多様なライフヒストリーの探究を通して、個を起点として私達を取り巻く地域や社会の抱える課題を考察し、あるべき社会像を構想しながら研究のレポートをまとめていきます。

■ 達成目標

- 1 身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直す
- 2 多様なライフヒストリーを探究する
- 3 地域や社会の諸状況を理解し、現代を構造的に把握する
- 4 様々な観点から自分の課題を発見して考察を深め、自身の生き方について大きな見取り図を描く

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

人が生きるところにライフヒストリーがあり、人類の壮大なライフヒストリーと、一人ひとりの固有な在り方を映し出すライフヒストリーとが交差する〈現在〉にあって、人との繋がりの中で自分の立ち位置をみつめ、現代社会の固有の課題や未来への希望、あるべき社会像を思い描いてみる。また、自分らしく生きるとはどういうことなのか、社会で生きる意味とは何かといった根源的な問いを日常の視点から考察する。そんな学問横断的な作業を通して視野を広げ、思考を鍛えていきます。

大げさに聞こえるかもしれませんが、授業への取り組みは自分自身と対峙すること、授業の時間は生き方を構築する時間として大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：日本近現代史（社会史、思想史、女性史）

現在の研究では、明治以降の近代社会の形成期という激動する社会において、前人未到の境地を切り開き、人生を存分に生き抜いた様々な女性の思想と行動を掘り起こし、光を当てています。現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。



科目名：「ジェンダーとフェミニズム A ／フェミニズム A」

■ 講義概要

ジェンダー、フェミニズム入門——世界の流れ・日本の流れ

フェミニズムとそのキー概念であるジェンダー、性別役割、セクシュアリティ（性現象）とその周辺概念および性の多様性、ジェンダー、フェミニズムの現代のトピックについて講じる。また、とくにイメージだけで語られがちな日本の男女について、諸領域での統計資料を用いて検討し、さらにフェミニズム、ジェンダー平等に関連した国連の活動の流れや、それにともなった日本政府の男女平等に向けての取組み（男女共同参画社会政策）・自治体の動きを概観していく。講義には映像資料を使用することがある。新型コロナウイルス問題とジェンダーのトピックも入れる。

■ 達成目標

「草食男子」が増え、レディースデーや女性専用車両は幅をきかし…男女平等は行き過ぎ、女性優遇だ、との声がある。その一方で非正規雇用の拡大は女性を中心に進み、日本の男女賃金格差は先進国中でも大きく、共働きの家庭でも家事など無償労働の多くを女性が担う。男女格差についての国際比較では日本の順位は著しく低く、2019 年、153 カ国中 121 位と過去最低を記録した。性暴力のニュースも後を絶たない。日本は男女平等は実現していると思っていたのに、と驚く学生は少なくない。

女性差別の撤廃を目指すフェミニズム（女性解放思想・運動）は200年以上の歴史をもつが、現代にいたるフェミニズムが盛んになったのは、1960 年代後半からである。今や、性差別の撤廃はグローバルな課題として認識され、制度的な平等のみならず、「男は仕事、女は家庭」といった性別役割、意識、慣習などの変革が求められている。最近ではさらに性の多様性の報道も増え、そもそも性別とは何なのか、との議論も盛んである。女性の能力を社会に生かすことこそ日本再生のカギ、という意見も目立ってきた。

この講義では、現代日本社会の男女の状況を概観し、性差別の解消に向けての取組を学び、男女の平等や公正について理解する。また、ジェンダー概念や性の多様性について検討し、性差の社会的構築性についての洞察力を深める。これらの学びによって、ジェンダーの公正の視点を身に付け、学生らの将来設計が性別に関わりなく、いっそう豊かに広がることを期待する。

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2 年前から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社会を実現していくために、生かして欲しいと思います。

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ―性分化をとらえ直す―』世織書房 2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社 2017。

科目名：「ジェンダーとフェミニズム B / フェミニズム B」

■ 講義概要

現代日本のフェミニズムおよびジェンダーをめぐる諸課題

フェミニズム・ジェンダーをめぐる現代的・具体的な諸問題を取り上げて講じていく。これらの問題や課題について学びながら、適宜、討議の時間を設け理解を深める。講義には映像資料を使用することがある。

■ 達成目標

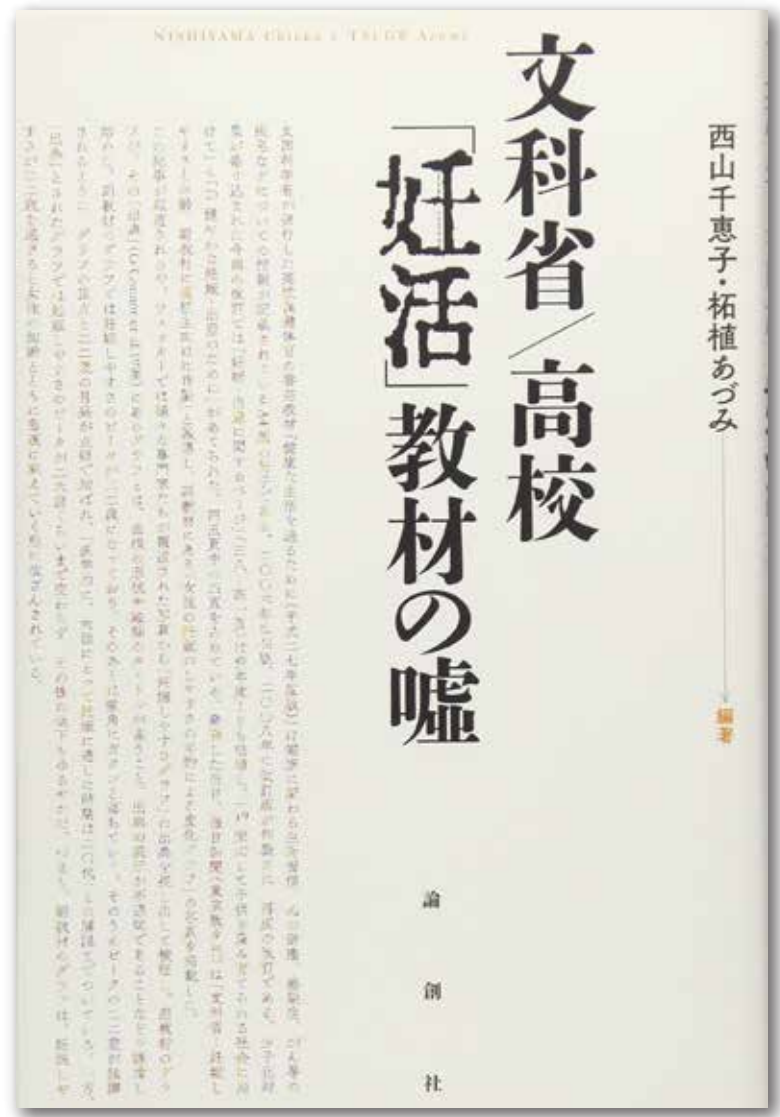
この講義はフェミニズムAの発展編と位置付ける。19 世紀半ば以降の第一波フェミニズムから1960 年代以降に再び興隆した第二波フェミニズムにいたるまで、フェミニズムは様々な立場、主張を展開してきた。この講義では、リベラル・フェミニズム、ラディカル・フェミニズム、エコロジカル・フェミニズム、メンズ・リブ（男性解放運動）といった諸潮流や、今日のフェミニズムの呼び水となったウーマン・リブの思想などを紹介し、フェミニズム思想のいろいろな立場を概観し、「男女平等社会」の多様なモデルを展望する。また、現代のフェミニズムが課題としている、女性の政治参加、性と生殖に関する健康と権利、ドメスティック・バイオレンス（親密な関係における暴力）などのトピックや、メディアにおける男女の表現、メディア・リテラシー等を取りあげ、身近な生活に潜在するジェンダーの問題に気づき、考察する力を養うことを目標とする。

担当者：西山 千恵子（にしやま ちえこ）

この授業の名称は、以前は「フェミニズム A・B」でしたが、2 年前から「ジェンダー」が付け加わりました。名称変更のさい私からは「フェミニズム」の言葉を残すことを提案しました。「フェミニズム」という言葉はものの見方、思想だけでなくジェンダー平等を実現するための実践や運動も意味するからです。ジェンダーについて考える糸口、課題は日常生活のいたるところに、そしてあなた自身の中にも散りばめられています。学生の皆さんにはジェンダー、フェミニズムについて知る、学ぶだけでなく、その学びを自身の人生をさらに充実したものにするために、そして公正な社会を実現していくために、生かして欲しいと思います。

■ プロフィール

千葉大学卒、お茶の水女子大学大学院修士課程修了。高校時代から女性史、フェミニズム関連の書籍に接し、大学院からは女性学、ジェンダー研究の道へ。共訳にアン・ファウスト - スターリング 著『セックス／ジェンダー ―性分化をとらえ直す―』世織書房 2018、共編著に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』論創社 2017。



■ 講義概要

さまざまな場所で経験を積んできたゲスト講師の講演を通して、いのちと社会をつなぐジェンダー視点を学ぶ。

■ 達成目標

- *「いのち」を脅かすものを社会的視野の中で考えることができるようになる。
- *近現代日本において、女性がどのように生き、働いてきたか、具体例を通して、より立体的に理解できるようになる。
- *世界の政治的・経済的状况についても把握できるようになる。
- *問題解決のためにできることを考えられるようになる。

■ 授業内容（予定）

放射線被曝から子どもを守る市民の活動を知る。／里親支援の現場からいのちを考える。
子育て・子育てのさまざまな現場の課題と取り組む人々を知る。
ストリートチルドレンの現状と支援の現場を知る。／カンボジア内戦のサバイバーの半生に出会う。
トルコの女性の生活文化を通して、イスラムの多様性を知る。
杉並の女性たちが立ち上げた原水爆禁止運動を学ぶ。／沖縄の基地問題の歴史と現状を学ぶ。
丸木位里・丸木俊「原爆の図」を中心に、社会問題と芸術の関係を考える。
戦時性暴力について、問題の所在を知り課題解決に必要なことを考える。
福島と広島をつなぐ活動に携わる作家のライフヒストリーを通して、いのち・女性・社会を考える。

担当者：西山 利佳（にしやま りか）

ドーラ・E・スクーンメーカー宣教師がアメリカから日本へ渡ってきたのは 1874 年。彼女が、青山学院の源流である女子小学校を開いたのは 23 歳になったばかりのころです。彼女の生涯をまとめた棚村恵子先生の講演を聞いたとき、はっとしました。アメリカが政教分離だったことで、宗教が家庭の領域・女性の領域となり、女性たちの自己実現の場としても教会活動が盛んに行われたとのこと。歴史的、文化的に「女性」が追いやられた先は「いのち」に近い場所だったかも知れません。「女性」の観点で「いのち」と「社会」を考え、つなぎ、「わたし」のもやもやを「わたしたち」の問題として言語化する……そんな野望を持つ科目です。

■ プロフィール

2016 年度～ 2021 年度、青山学院女子短期大学子ども学科准教授。2022 年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。



『わたしたちのアジア・太平洋戦争』（童心社・2004）（共編著）

科目名：「聖書の中の女性たち（新約）」

■ 講義概要

キリスト教は女性の価値を軽んじて来ました。教会の長い伝統は、理想の女性像を慈愛に満ちた母、または処女というステレオタイプのイメージに作り上げて来ました。この理由には、古代の家父長制の指導者である男性が都合良く女性を支配するためというものがあります。聖書は、家父長制の時代に書かれ、キリスト教も長く家父長制という制度をひきずっています。この講義では、それでは今後、どのように聖書を理解できるのか、建設的にしかし批判的に聖書を理解していきます。

■ 達成目標

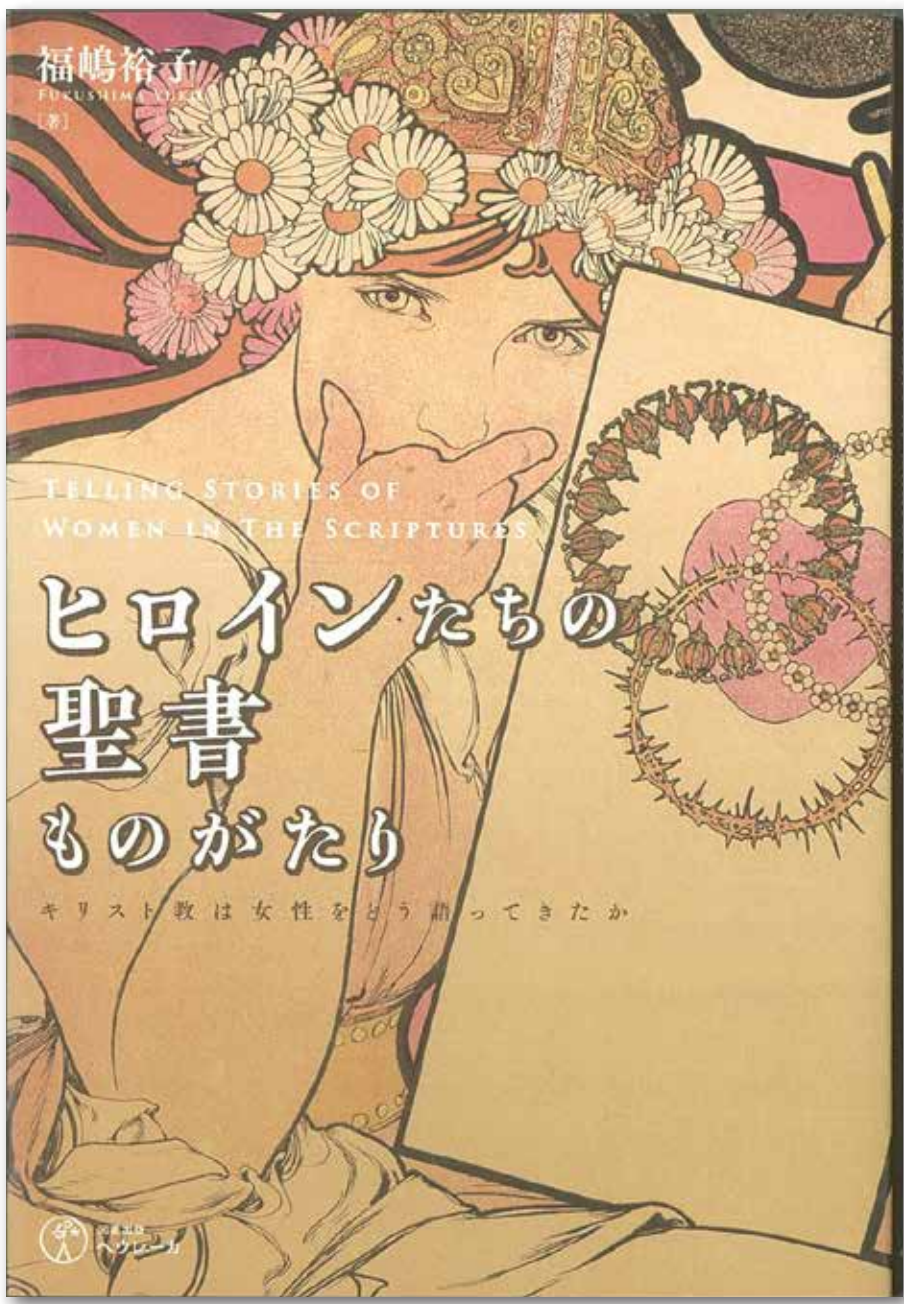
新約聖書が書かれた時代の家父長制と女性嫌悪について理解を深める。
建設的に、しかし批判的に聖書を読み、キリスト教理解を深める。

担当者：福嶋 裕子（ふくしま ゆうこ）

フェミニスト聖書解釈の視点と方法で新約聖書を読んでいます。頭を柔らかくして、いろんな角度から聖書に登場する女の人たちをできるだけ立体的に理解できたらと願っています。

■ プロフィール

青山学院大学理工学部教授・大学宗教主任。ハーバード大学神学部博士課程終了。
専門：新約聖書とキリスト教の諸起源。
著書『ヒロインたちの聖書ものがたり』（ヘウレーカ ,2020）。



科目名：「**聖書の中の女性たち（旧約）**」

■ 講義概要

旧約聖書に登場する女性たちを女性の視点から理解する。
フェミニストの課題が、女性の権利拡張にあるのではなく、人間と社会を取り巻く経済・政治・文学などあらゆる分野で課題を持っていることを認識する。

■ 達成目標

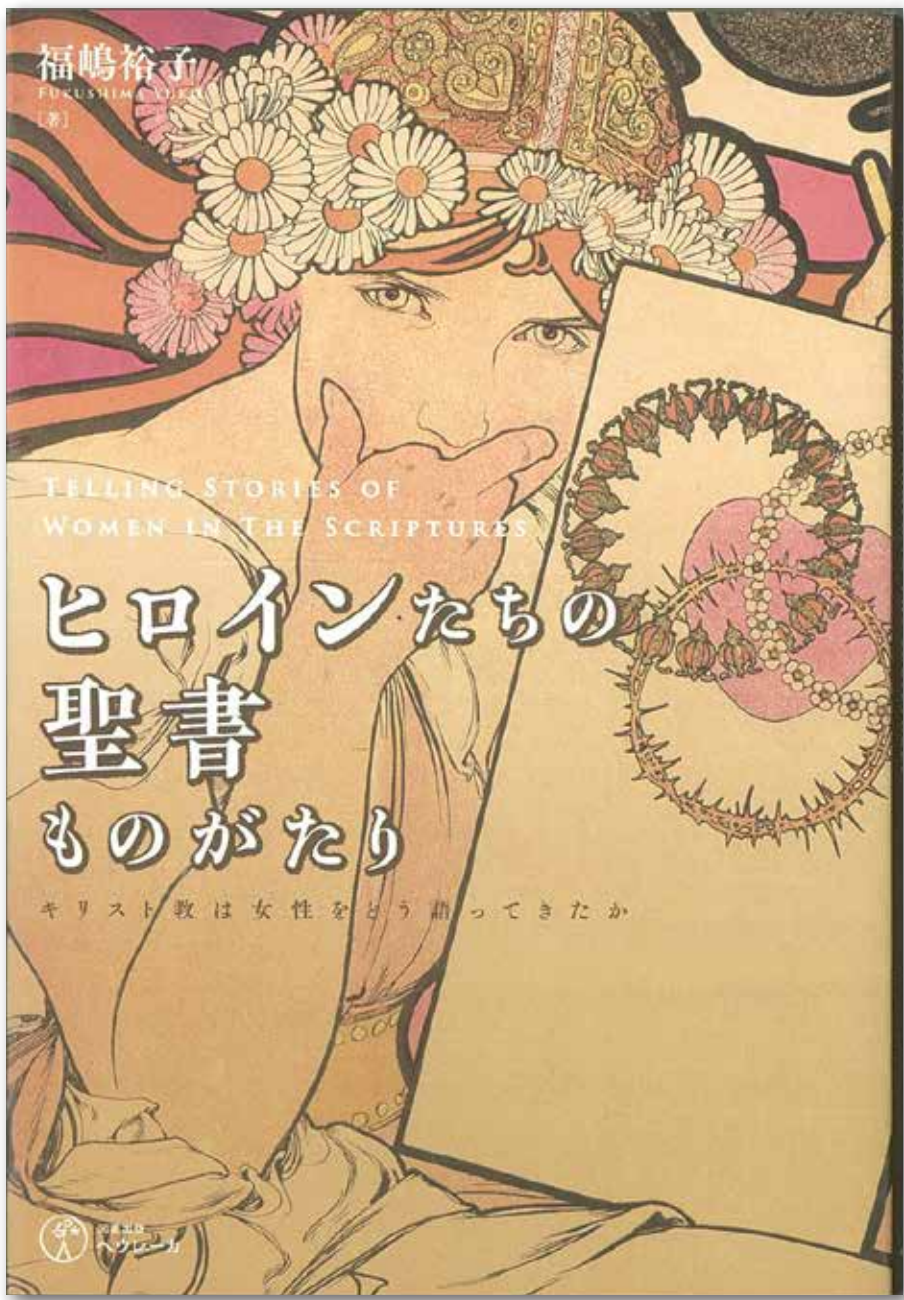
女性を差異化する考えに対して、様々な視点から疑問を投げかけ、聖書の倫理観を知ることができるようになる。

担当者：**福嶋 裕子**（ふくしま ゆうこ）

フェミニスト聖書解釈に沿って、旧約聖書に登場するいろんなタイプの女の人たちを見ていきます。現代の常識とは異なる面白い発見があることを期待しています。

■ プロフィール

青山学院大学理工学部教授・大学宗教主任。ハーバード大学神学部博士課程終了。
専門：新約聖書とキリスト教の諸起源。
著書『ヒロインたちの聖書ものがたり』（ヘウレーカ ,2020）。



科目名：「現代社会の諸問題（個別科目）（英語講義）」

■ 講義概要 Course description

Course theme: Gender and law

In this class, we will look at various issues relating to the rights of women and the rights of sexual minorities in Japan and other countries, focusing particularly on the role of law. Legal rules sometimes discriminate directly or indirectly against women and sexual minorities, while in other cases they serve as a force for liberation and transformation. We will examine this dual nature of law by looking at topics such as marriage and the family, gender identity, sexual and domestic violence, and participation in politics and the workforce, studying examples from both Japan and other countries and considering both domestic and international law. Students will learn that the social status of women and sexual minorities is not fixed or unchangeable, but has varied over time and from place to place throughout history, and that social movements in modern times have played a key role in lobbying for reform of oppressive laws and for the introduction of laws that can be used to challenge gender discrimination. The class will provide students with an opportunity to consider their beliefs about gender, and to think about how we can all help create a world in which everyone can achieve their full potential, free from gender discrimination and gender stereotypes.

■ 達成目標 Course objectives

By participating in this course, students will:

- a) learn the meaning of basic concepts such as sex (including the concept of intersex), gender (including the concepts of gender identity, gender expression and gender roles), and sexual orientation.
- b) gain a basic understanding of the kinds of discrimination that still exist against women and sexual minorities in Japan and other countries.
- c) gain a basic understanding of how laws have either reflected and reinforced such discrimination, or have been used to combat it.

担当者：COOP, Stephanie Louise. (クープ, S. L.)

ジェンダー差別に対処し、みんながより生きやすい社会をつくるために、法は基本的な手段の一つになります。私の出身国オーストラリアでは、オーストラリアの連邦法のもとで（ジェンダーに基づくものを含む）差別が禁止され、差別を受けた者は「オーストラリア人権委員会」という国内人権機関に申し立てることができます。委員会は申立人と差別が訴えられている者との間の調停プロセスを無料で提供し、これにより訴訟に至る前にジェンダー差別が救済されるケースが少なくありません。様々な地域の事例を視野に入れながら、皆さんと一緒にジェンダー平等を実現するための法の可能性を検討していければ幸いです。

■ プロフィール

オーストラリアのメルボルンで生まれ、1992 年来日。翻訳者・編集者・記者として働きながら人権 NGO で活動。2003 年、青山学院大学大学院法学研究科博士前期課程入学、2005 年修了。2005 年、同博士後期課程入学、2011 年修了（博士（法学））。

現在、青山学院大学法学部准教授。国際刑事法をジェンダーの観点から研究している。



オーストラリア人権委員会を訪問（2020 年 2 月）

科目名：「自己理解（個別科目）」

■ 講義概要

子どもの本とジェンダーについて考えます。
子どもの本（絵本や児童文学）の中にひそむジェンダーに焦点を当て問題提起していく部分と、ジェンダーフリーや性の多様性をテーマとした子どもの本を紹介する部分と、主にこの二本の柱で多くの作品を紹介しながら進めていきます。

■ 達成目標

- *子どもの本の批判的な読みにジェンダー視点が必要なことを理解する
- *ジェンダーに焦点を当て、児童文学や絵本を読み込めるようになる
- *古典的な作品やロングセラーの作品をジェンダー視点で再評価できるようになる
- *自身のジェンダー感覚や“性”に対する感覚を問い直せるようになる

担当者：西山 利佳（にしやま りか）

私は「女性学」や「フェミニズム」、「ジェンダー論」などを専門的に学んだことはありません。大学3年の時に児童文学批評のおもしろさに取りつかれて以来40年、「批評」という立場で子どもの本に関わってきました。私が面白がっている児童文学批評は、例えば「純真無垢」といった「子どもらしさ」の思い込みやステレオタイプの再生産に異議を唱え、水を差す仕事です。それは、「女らしさ」や「男らしさ」の呪いを指摘し、抵抗する作業と地続きです。「女子ども」という言葉もある文化状況の中では、なおのこと。無用なジェンダーの刷り込みを次世代に再生産させないためにも、絵本や、児童書をジェンダー観点でいっしょに読み直してみませんか？

■ プロフィール

2016 年度～ 2021 年度、青山学院女子短期大学子ども学科准教授。2022 年度～青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。日本児童文学者協会常任理事、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会副委員長、〈子どもの本・九条の会〉運営委員など。趣味は南米。同居動物は猫。



西山利佳『〈共感〉の現場検証』
（くろしお出版・2011）

科目名：「**歴史と人間**（個別科目）」

■ 講義概要

～ライフ・ヒストリー・ジェンダー探求～

身近な生活の中に存在している諸問題を自覚的に捉え直すための授業です。男女格差をはじめとする現代日本の現状や人々の多様なありようを広い視野でとらえ、歴史的な経緯を踏まえてジェンダーをめぐる諸状況を理解していきます。様々な観点からの考察によって自分の課題を発見し、自身の生き方の軸を確かにするための知を打ち立てることを目指します。

■ 達成目標

- 1 身近な生活の中の問題や課題を発見すること
- 2 多面的な観点から現代社会の諸問題とその歴史的背景を把握すること
- 3 自分自身にとっての課題を発見し、考察を深めること

担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

この授業では抽象的な概念の講義ではなく具体的な問題に向き合って、現代社会の諸問題を考察します。日本と世界、貧困とジェンダー格差、恋愛と婚活、心と身体、生と性、命といった私たちにとって大切なテーマと向き合い、答えのない問いに対峙することで自身の見解を打ち立てるという挑戦を重ねて、自分の内面に確かな手ごたえを感じていくようにと願っています。

大げさに聞こえるかもしれませんが、授業への取り組みは自分自身と対峙すること、授業の時間は生き方を構築する時間として大切にしてください。

■ プロフィール

専門分野：日本近現代史（社会史、思想史、女性史）

現在の研究では、明治以降の近代社会の形成期という激動する社会において、前人未到の境地を切り開き、人生を存分に生き抜いた様々な女性の思想と行動を掘り起こし、光を当てています。

現在、青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授。



科目名：「歴史と人間（総合科目）」

■ 講義概要

この授業では「歴史と人間」についてジェンダーの視点から考察する。
生物学的な性差とは異なる社会的・文化的・心理的に形成された男女の性差を示すジェンダー概念を軸に、わたしたちが性別を認識し文化として構築する方法や社会の中で果たしている機能などの諸問題を考察する。
本講義は専門の異なる複数の教員によりリレー式で行われ、「身体とジェンダー」「社会とジェンダー」「文化とジェンダー」の3つのセクションに分けて、ジェンダーという概念をめぐる歴史と人間の大まかな諸相を把握する。性別システムにまつわる歴史を知り、視野を広げ、専門領域を横断するような視座を獲得するために、資料や文学テキスト、映像等を題材に考察する。

■ 達成目標

ジェンダーとはどのような概念であり、どれほどの射程をもつのかを理解し、ジェンダー学（従来のフェミニズム、女性学、男性学、LGBT スタディーズを包括するもの）の視点を青学生としての「教養と技能」の基盤として理解し身につけながら、「歴史と人間」の状況と課題を複眼的に考察し自己の見解をもつこと。

担当者：輪島 達郎（わじま たつろう）

この授業では身体の「植民地化」による支配という視点でジェンダーの問題を考えます。植民地支配は欲望や権力を通じて身体のすみずみにまで及びます。もちろん、あなたの身体にも。それを自覚でき、そのカラクリを見抜くことができる修練を積んでいただきたい。

■ プロフィール

専門分野：琉球史・琉球芸能
人はどのように他の人や集団を「植民地化」するのか、それにたいして「植民地化」された人々はどのような抵抗をしてきたのか、ということを考えています。



担当者：小林 瑞乃（こばやし みずの）

ジェンダーを軸に現代社会の諸相を復元的な観点から考察するとともにあるべき社会像を構築し、同時にまた、生きる意味や自分の在り方を考えるという根源的な問いと向き合って、自分の軸を確かなものにして欲しいと願っています。

■ プロフィール

専門分野：日本近現代史、社会史、思想史、女性史
制約の多かった近代日本で自らの生き方を貫いて現代への道へ切り拓いた人々を研究対象にしています。



担当者：山田 美穂子（やまだ みほこ）

不思議の国のアリスのセリフにもありましたが、「わたしは誰？」という問いを抱かない人はいないでしょう。それがジェンダーを考えることでもあるのです。様々な答えが文学作品には見つかりますよ。

■ プロフィール

専門分野：イギリス文学
19世紀末から20世紀初頭のイギリス文化や社会背景と文学作品との関係を研究しています。

